

コロナな世の中で
安心してお産できるように

★新型コロナウイルスに関すること

新型コロナウイルス感染者数は、今現在も全国で連日報告されております。

緊急事態宣言は解除されたものの、まだ予断を許さない状況にあります。

当センターではお母さんと赤ちゃんの安全を第一に考え、より一層感染対策を強化しています。



★当センターでのお願い



- 赤ちゃんの窓越し面会や分娩立ち会いを中止しています
- 面会は1階ロビーも含め全面禁止させていただきます
- 予定帝王切開、経膈分娩時、家族は原則自宅待機とします
- 予定入院、退院のお迎えは、1階ロビーでお待ち合わせください
- 夜間の受診の際も、ご家族には病棟外で待機していただき、入院が決定しましたら電話連絡致します

患者様とご家族にはご不便をおかけしますが、
何卒、ご理解ご協力のほど宜しくお願い致します。





コロナな世の中で 安心して 出産するために!



お産の時期にコロナ陽性またはコロナ疑いとなった場合
帝王切開となったり、赤ちゃんと離ればなれになったり
おっぱいをあげられなくなることがあります



1

できる限り外出しているご家族との接触を避け、
食事や寝室の場所を分けましょう。

(特に36週以降ご注意ください)



36週以降はできるだけ
お買い物に出なくて済むよう
工夫しましょう。

共有スペースの利用は最小限に、
個室など部屋を分けることが難しい場合は、
2m以上の距離を保ったり、
仕切りやカーテンの設置をオススメします。



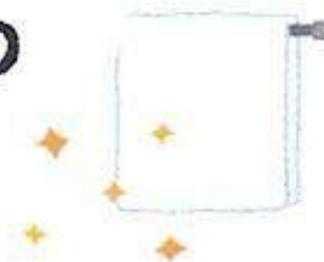
2 家でもマスクをつけて
もらいましょう。



3 入浴は最初に入りましょう。



4 タオルは共有せず、自分専用の
清潔なものを使いましょう。



5

こまめに手を洗いましょう。

ご帰宅したらまず手洗い！

20秒以上の石鹸手洗い
またはアルコール消毒。

洗っていない手で目・鼻・口を触らない。
顔を触る前には、手を洗いましょう。



6 お部屋の換気をしましょう。

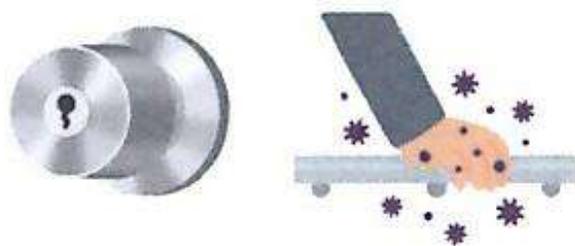


1～2時間に
1度、
5～10分。

7 共有部分のドアノブや手すりなど、拭き取り消毒しましょう。

消毒用アルコールのほか、
家庭用市販塩素系漂白剤も使用可能です。
*ご自身でする際には手袋とマスクをつけて。

洗濯や食器の洗浄は通常通りで良いですが、
ご自身でする場合は手袋とマスクをつけましょう。



8

ゴミの処理は、
できればご家族にお願いしましょう。



ご自身でする際には
手袋とマスクをつけて。

同居のご家族もお熱を測るなど健康観察をし、不要不急の外出は避け、
症状持続時は、かかりつけ医や帰国者・接触者相談センターに相談しましょう。(厚労省Q&A参照)

心配事がある時は、SNSではなく
かかりつけ医に相談しましょう。



1 できる限り外出しているご家族との接触を避け、食事や寝室の場所を分けましょう。
(特に36週以降ご注意ください)



36週以降はできるだけお買い物に出なくて済むよう工夫しましょう。

共有スペースの利用は最小限に、個室など部屋を分けることが難しい場合は、2m以上の距離を保ったり、仕切りやカーテンの設置をオススメします。



2 家でもマスクをつけてもらいましょう。



3 入浴は最初に入りましょう。



4 タオルは共有せず、自分専用の清潔なものを使いましょう。



ながたクリニック院長
ハシイ産婦人科
大阪赤十字病院 周産期専門医

永田理希先生 資料改変
橋井康二先生 監修
清川 晶



厚労省：感染防止の
自宅隔離の方法



花王ビオレ
手洗い動画



妊婦さん向け
コロナウイルス感染症情報



厚労省
新型コロナウイルスQ&A

コロナな世の中で 安心して 出産するために!

お産の時期にコロナ陽性またはコロナ疑いとなった場合帝王切開となったり、赤ちゃんと離ればなれになったりおっぱいをあげられなくなることがあります



5 こまめに手を洗いましょう。

ご帰宅したらまず手洗い!

20秒以上の石鹸手洗い
またはアルコール消毒。

洗っていない手で目・鼻・口を触らない。
顔を触る前には、手を洗いましょう。



6 お部屋の換気をしましょう。



1~2時間に
1度、
5~10分。

7 共有部分のドアノブや手すりなど、拭き取り消毒しましょう。

消毒用アルコールのほか、
家庭用市販塩素系漂白剤も使用可能です。
*ご自身でする際には手袋とマスクをつけて。

洗濯や食器の洗浄は通常通りで良いですが、
ご自身でする場合は手袋とマスクをつけましょう。



8 ゴミの処理は、できればご家族にお願いしましょう。



ご自身でする際には
手袋とマスクをつけて。

同居のご家族もお熱を測るなど健康観察をし、不要不急の外出は避け、
症状持続時は、かかりつけ医や帰国者・接触者相談センターに相談しましょう。(厚労省Q&A参照)

心配事がある時は、SNSではなく
かかりつけ医に相談しましょう。

